

「柏崎の水」

あら町の井戸 荒又温泉 治三郎の清水 石山清水

あら町の井戸（大久保）

あら町とは大久保1丁目付近のことであり、井戸は現在の帝国石油の敷地内にあったという。明治45年に起稿された「大洲村史原稿」には「米山薬師塘の傍はらにありて 柳橋原酒店のつくり水に用いしなり 今は其跡莫し」とある。良質な水が出たため原酒造が酒造りにこの水を使い、米山薬師碑を祀った。この碑は後に他の場所に移され、井戸の跡も残っていないという。



治三郎の清水

荒又温泉（高柳 坪野）

「ふるさと創生事業」のひとつとして平成2年に高柳町坪野集落の奥で温泉開発が行われ、水温約35度・うす茶色の温泉が掘削された。この温泉は県衛生公害研究所により「ナトリウムが多く含まれ、皮膚病などに特に効果がある」と分析された。その後しばらくは黒姫山の登山道に温泉の水口が設けられていたが、じょんのび村が誘客の目玉としてこの温泉を利用することになった。平成6年6月、源泉から2km以上もの距離を引き湯し、じょんのび村の温泉棟「楽寿の湯」が完成。現在でも多くの入浴客で賑わっている。（楽寿の湯は来年4月まで改修中）



荒又温泉の湧出場所

治三郎の清水（女谷）

鵜川から阿相島へ向かう道の脇に湧き出ている治三郎の清水は、地域住民の生活用水や鯉の養殖・豆腐作りなどに使われていたという。かつて清水は田んぼの土手から出ていたが、道路の開通・拡幅の関係で現在の位置に移った。豊富な水量を誇り、多くの人が水を汲みに訪れるこの場所は、権利者の方や地域の人々により清掃など管理が行われている。

いしやま 石山清水（上方）

「柏崎文庫」に、石山清水は上方村の約四町西方の田にある、と書かれている。「清澄なり、延ひて村民の用水と為す」（刈羽郡案内）とあるように住民の生活用水として利用された。また明治時代には導水管を引き集落の3ヶ所に給水井戸が設置され、上水道が普及するまで使われたという。

参考にした本

「柏崎古絵図対照図」笹川芳三 著（292 ササ）

「大洲村誌原稿」関甲子次郎 著（224 セキ）

「柏崎のいしづみ」山田良平 著（224 ヤマ）

「柏崎文庫」関甲子次郎 著（080 セキ）

「綾子舞街道通信 平成18年7月号」海津印刷 発行

綾子舞街道通信は綾子舞会館などで配布されています